

営農ウィークリーNEWS

今年の米検査で多い白未熟粒とは

白未熟粒とは



背白粒

乳白粒

白未熟粒は玄米の胚乳内のデンプン粒の蓄積が不良で粒間に隙間ができ、光が乱反射して白く見えるものです。主に、出穂後 20 日間の平均気温が 27℃以上の高温条件や、または低日照で発生すると言われています。

8月は猛暑となり、平均気温は 29℃でしたので、早生品種の「キヌヒカリ」や「コシヒカリ」で白未熟粒が多く発生しました。

また反対に、9月は、雨の降った日が 22 日もあり、日照時間も平年の 66%と低日照に推移しました。そのため、晩生の「ヒノヒカリ」でも白未熟粒や未熟粒が多く見られました。

未熟粒の発生原因は気象以外の栽培面でも考えられます

玄米は、葉において光合成で生産された糖類をデンプンの形で蓄えるところです。順調な光合成を確保するためには、健全な根からの十分な吸水が必要です。吸水が不十分だと、気孔が閉じ、葉温が上がり、光合成の機能が低下します。

十分な根張りと、肥え切れしない肥効を確保するための土づくりは欠かせません。

これからの時期、土壌の改善は重要な作業です。

根張り充実のための対策

- 1 堆肥投入や稲わらすき込みなど有機物補給による土づくり。
- 2 ケイ酸加里を元肥に施用(40~60kg/10a)。秋施用も可。ケイ酸加里は流亡しにくい肥料です。
- 3 発根促進のためフジワン粒剤施用。育苗箱(25~50g/箱)、出穂10~20日前(4kg/10a)。

—TAC information—



—花菜 機械化への挑戦!—

花菜、定植後の様子~!!!



10月14日、花菜機械化への挑戦で、全自動・半自動移植機で、定植を行った圃場を、調査しました。

数か所、調子が悪く、植え替えを行いました。それ以外は、すこぶる順調です!

今後の、生育が本当に楽しみです!!!